

通し番号	5023
------	------

分類番号	R02-34-12-08
------	--------------

ニホンナシ ‘なつみず’ の果芯褐変は6月下旬の反射マルチシート敷設で抑制できる

[要約] ニホンナシ ‘なつみず’ の果芯褐変は6月下旬ごろから収穫終了まで樹冠下に透水性反射マルチシートを敷設の上、果実表面色カラーチャート値3～4で収穫することで発生を抑制できる。

神奈川県農業技術センター・生産技術部

連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

本県で育成したニホンナシ ‘なつみず’ は良食味で肥大良好な極早生品種であるが、成熟期になると果芯部が褐変する症状(以下、果芯褐変)(図1)の発生が確認されており、県内のナシ販売の主体である贈答・直売用品種として、普及が難しい状況であった。そこで、果芯褐変の発生を抑制するための対策を検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1 6月下旬ごろに樹冠下に透水性反射マルチシート(スノーテックスクロス有孔)を敷設(図2)することで、果芯褐変の発生を抑制できる(図3)。
- 2 果実の成熟を示す地色カラーチャート値が上昇するにつれて、果芯褐変の発生率・程度ともに高くなり、透水性反射マルチシートを敷設すると発生率・程度は軽減される。
- 3 地色の確認には果実の薄皮を剥ぐ必要があるため、地色カラーチャート値を反映した果実表面色カラーチャートを作成した。
- 4 透水性反射マルチシートを敷設し、果実表面色カラーチャート値3～4で収穫することで、安定して果芯褐変の発生率を抑え、果実品質を低下させずに収穫することができる(図4)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 透水性反射マルチシートは6月下旬ごろから収穫終了まで、樹冠下をまんべんなく覆うように敷設する。敷設する面積が足りないと果芯褐変の発生抑制効果が弱まることがある。
- 2 試作した果実表面色カラーチャートは透水性反射マルチシートを敷設することを前提に作成している。

[具体的データ]



図1 果芯褐変が発生した‘なつみず’



図2 ‘なつみず’樹冠下に設置した反射シート

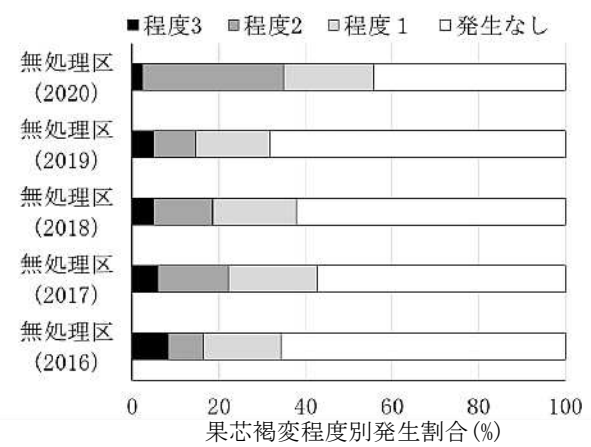
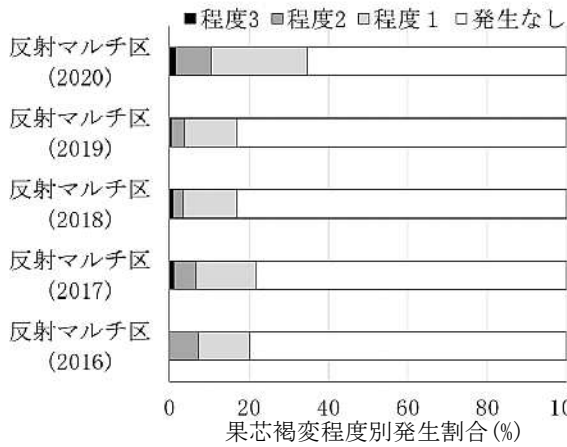


図3 反射マルチの設置が果芯褐変発生程度別割合に及ぼす影響(2016年～2020年)
(左：反射マルチ区 右：無処理区)

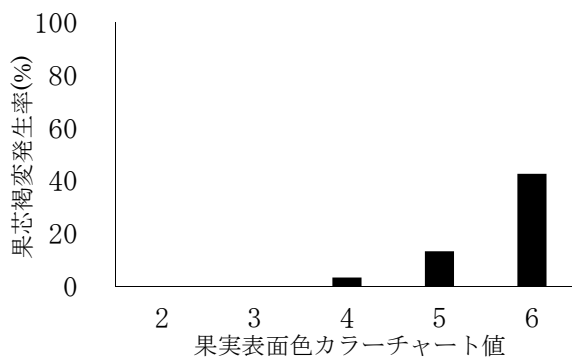


図4 反射マルチ区での果実表面色カラーチャート値と果芯褐変発生率(%)の関係(2020)

[資料名] 平成28～令和2年度試験研究成績書(果樹)
 [研究期間] 2016(平成28)年度～2020(令和2)年度
 [研究課題名] ‘なつみず’果芯褐変の原因解明と対策技術確立
 [研究者担当名] 廣瀬 恭祐・柴田健一郎・小泉 和明・関 達哉・伊藤 彰倫
 [協力・分担関係]